

会 議 録

会議の名称	平成 28 年度中野市総合戦略会議
日 時	平成 28 年 7 月 7 日（木） 18：30～20：05
会 場	市民会館 42 号会議室
出席者等	<ul style="list-style-type: none">・出席者：前澤憲雄（会長）、上野見（副会長）、高橋一隆、小野建一、山浦直人、宮川浩、関貴彦、三枝康雄、山口和彦、山下健一、戸島裕司、山口美緒、相子靖子、内山奈月、吉原明彦（アドバイザー）・欠席者：渡辺信也・市出席者：竹内総務部長、小橋政策情報課長、柴本政策推進係長、青木主査、矢野主事
次第	<ol style="list-style-type: none">1 開会（進行：竹内部長）2 あいさつ（会長）3 報告事項（小橋政策情報課長）<ul style="list-style-type: none">・中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について <資料 1 >4 会議事項<ul style="list-style-type: none">・平成 27 年度における中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況の評価検証について <資料 2・3・4 >5 その他<ul style="list-style-type: none">・中野市総合戦略会議先進地視察について <資料 5 >6 閉会
発言内容	別紙のとおり

【別紙】

平成 28 年度中野市総合戦略会議

平成 28 年 7 月 7 日 (木)

18 : 30 ~ 20 : 05

市民会館 42 号会議室

1 開会

2 あいさつ

(会長)

お集まりいただきありがとうございます。

昨年末以来、こうして集まるのは久々だが、久しぶりに総合戦略の進捗状況をチェックするというミッションができた。

我々は、中野市に人が集まり、市民の皆さんの幸せを実現し、地域全体が活性化する、そのための市役所の事業についてチェックを中心に取組む。事務局から 1 年間の報告を受け、ただチェックするだけでなく、自分から率先して実践していこうという気概で考えてほしいと思っている。私も自身が取組む事業がこの中に入っているので、順次やっっていこうとそういうつもりでいる。

皆さんにとって、この会議が有意義なものになるようお願い、簡単だが冒頭のあいさつをしたい。

3 報告事項

・政策情報課長から資料 1 に基づき説明

・委員からの質問及び意見

○目標数値設定の考え方及び新規掲載事業について

(委員)

2 点質問をしたい。

1 つめであるが、現状にあわせて指標の見直しをしたという、それ自体はおかしなことではないが、目標数値の考え方がよく分からない。目標数値設定の考え方について教えていただきたい。

2 つめは追加事業の件である。今回追加した 3 事業以外に、新規事業はなかったのだろうか。検討のプロセスについて説明してほしい。

(政策情報課長)

1 つめの目標数値の算定方法であるが、担当課で実現可能な数値を検討してもらっている。例えば、学校給食での地元産食材使用率という指標があるが、当初の目標数値は 60% であったが、27 年度の実績が 64% であったため、目標数値を 65% に上方修正している。地元産食材を使えば使うほどいいという考え方もあるが、学校給食で重視すべき子どもたち

の栄養面を考えると、冬場に葉物野菜を提供できないことから現実的に考え、65%という目標数値を設定した。

また、新たに掲載する事業については、国の交付金の対象となりそうなもの、既に国の交付金の対象として事業を進めているものである。今回の改訂に伴い、庁内に確認をしたが、他に掲載すべき事業はなかった。また、総合戦略は広く事業を拾っているため、ほとんどの事業はどこかに該当することから、この3事業のみを新規に掲載した。

(委員)

委員として進捗状況のみを確認するのであればいいが、そもそもの目標数値が妥当であるのかを検討するためにも、目標数値設定の考え方について明確にしていきたい。

○改訂版の周知方法について

(委員)

改定内容はいいと思う。どのように市民に対して周知広報をする予定であるのか。

(政策情報課長)

市公式ホームページや広報により、市民の皆さんに分かりやすく提示したい。

(委員)

策定時のようなダイジェスト版の策定予定はあるのか。

(政策情報課長)

その予定はない。

(会長)

広報なかのを使って周知をしてほしい。

4 会議事項

・政策情報課長から資料2、3、4に基づき説明

・委員からの質問及び意見

○評価基準の設定について

(会長)

全国自治体で総合戦略を策定しているが、評価基準は統一のものはあるのか。

(政策情報課長)

統一のものはないため、長野県や他自治体を参考に基準を作成した。

数値のみによる評価をしている自治体もあるが、分かりやすいように「達成」や「概ね達成」等の言葉による評価とした。

(会長)

基準は自分たちで作って構わないのか。

(政策情報課長)

評価規定は示されていないため、問題ない。

(委員)

立ち上がりから順調にいくもの、そうでないものと、全ての指標が比例的に増加するわけではない。進捗のスピードは評価に考慮されているのか。

(政策情報課長)

ご指摘のとおり初めからなかなか順調に進まない指標も存在する。

事業の特殊性から「効果が現れていない」という指標は作成したが、それ以外の指標はものさしの統一を図るため、全て数値で評価をしている。

(会長)

悪く言えば単純に、よく言えばわかりやすく評価をしている。

○進捗状況以外の評価方法について

(委員)

「達成」という進捗状況は、目標値に対して達成しているということだと思うが、成功したかどうかは別である。そこについて総合戦略ではどう評価するのかお伺いしたい。

また、目標値が達成されたため、目標数値を上方修正したものもあれば、修正していないものもある。そのため、達成率の評価だけで十分なのか疑問に思う。

(政策情報課長)

ご指摘のとおり達成率だけではなかなか判断できない指標もある。

目標数値の見直しにあたり、努力の結果目標値を達成できたもの、もともとの目標数値が甘いから達成できたものと両方あると思うので、達成率が9割を超えた指標については見直しを行って欲しいと全庁的に確認したところである。

今回目標数値を見直さなかったものについても、対象が毎年変わるため、1年だけの結果では判断できず経年変化を見る必要がある等上方修正できない理由はある。

まずは、1年目の検証ということでご理解をいただければと思う。

(委員)

実績により目標数値を修正していくのはいいことである。

一度決めたからと目標数値に捉われすぎず、毎年見直していくことが必要だと思う。

(政策情報課長)

毎年実情に合わせた見直しを行う予定である。

○5年に1度しか実績値が分からない指標について

(委員)

5年に1度しか実績値が分からない指標があるとのことだが何故か。

(政策情報課長)

基本目標3に掲げた市内事業所就業者数及び農業付加価値額については、それぞれ農業センサス、事業所調査という5年に1度の調査の数値を使用しているため、毎年の計測ができない。

(委員)

そのような指標を評価に用いるのはどうなのか。

5年後に出てきた数値が目標を達成できていないとその時に焦っても仕方がない。他に把握する方法を考えたり、違う指標を用いたり、代替指標を考える必要があるのではないかと。

(政策推進係長)

統計数字を指標に用いているものは、どうしてもタイムラグが生じてしまう。

また、基本目標に掲げた指標は、上位の目標設定であり、基本目標3で言えばイベントの開催及び出展数から続く個々で把握できる13の指標の結果が集合体として現れるものである。例えば、商業の活性化を図るには、新技術確立件数や歩行者通行量も指標となりうると言った具合である。

なお、基本目標の指標は、国や県でも同じ指標を使用しているため、統一したいという思いもある。

(委員)

5年後に出た実績値をみてあわてないよう個々の施策に取り組んでもらいたい。

○成果の記載方法について

(会長)

基本目標3の指標、市内事業所就業者数の成果が「5年に1度の調査のため、実績値が不明である。」とあるが、これは不適切である。成果には参考値のようなデータを使用し、こういった動きがみられるということを書かなければ意味がない。

数値以外にも内容的に動いているものがあれば、どこかで表現するということが必要なのではないか。

(政策情報課長)

ご指摘のとおりである。

数値に現れずとも事業が進んでいるものについては、具体的に今後の取組欄に記載をしている。既に28年度には目標を達成しているところもあるので、お目通し願いたい。

○農業以外の業種の助成金について

(委員)

資料4の助成金は農業に特化している。

農業以外に従事する者からは、どうして農業だけにこんなに手厚いのかと思う。何か農業以外の業種に恩恵のある事業はないのか。

(政策情報課長)

確かに農業は多い。それでも、観光振興事業や技術開発、販路開拓等支援事業は農業に限ったものではない。また、売れる農業推進事業も、関連事業者が入った事業体になっているため、農業に限らず商業にも関連した内容となっている。

(会長)

具体的にこの中で商業の皆さんに影響が及ぶものはあるのか。

(政策情報課長)

資料4は国の交付金を受けた事業であり、市の助成事業の一覧ではない。

交付金を受けるためには、地域の特徴や強みについての作文が必要になり、そうなると中野市はどうしても農業の比率が多くなる。

市の商業に対する助成事業として空き店舗助成等が存在するため、次の会議で市の助成金一覧を示すことは可能である。

○（仮称）きのこミュージアムについて

（委員）

農業関係者として「きのこの聖地」プロジェクトの（仮称）きのこミュージアムについてお伺いしたい。

個人的期にはハコモノをつくると維持費がかかり年々負担になるというイメージがあるが、その維持費についても交付額に含まれているのか。

また、指標として33年に10万人の入場者数とあるが、なかなか想像できない。

（政策推進係長）

（仮称）きのこミュージアムの構想については、きのこマイスター協会を中心に進めている。（仮称）と付くとおり、まだ構想段階である。

ハコモノを役所が作り、その維持経費を払うのは問題があるとのことだが、本件については、ハコモノを作って終わりではなく、自立的に運営がまわっていく、ビジネスとして成立する仕組みをつくるということで検討が始まっている。

（委員）

趣旨は理解した。税金を維持管理に投入するのではないことが分かり安心した。

ただ、10万人という目標設定についてはよく分からない。きのこマイスターの受験者等ならまだしも、どのような人が来るのだろうか。内容が分からないので何とも言えないが。

（会長）

プロジェクトの内容について、私から補足すると、現在、自立的な運営が可能かどうかということも含めて研究を始めたところである。

まずはプロジェクトチームを、きのこマイスター協会が中心となり、行政、JA、専門の歴史研究者、ミュージアム運営担当者により立ち上げ、どのようなミュージアムであるべきか検討を進めている。

中野市60年のきのこの歴史を展示するため、生き証人の方のデータを残し、過去の遺産を収集するとともに、現在使用している機具等の資料も収集している。

現在中野市の農業の8割はきのこ産業である。このウエイトは更に高まる傾向にあり、中野市はますますきのこタウンになっていくと想定される。最終的には他の農業品目もリンクさせて、中野市が農業都市だと発信していく機能をもてればいいと思っている。

10万人がどうかということだが、これから視察し勉強するが、群馬にこんにやくパークというところがある。世界遺産の富岡製糸場の近隣に位置するという立地条件もあるが、今では年間60万人の入場者がいる。こうした取組を参考にし、10万人という目標設定が妥当なのか、もっと高いのか、とても無理なのか検討していく。

○毎月の進捗管理及び留学生のSNS発信について

（委員）

年度が終了してから実績値を確認し、評価をしたのでは遅い。年度途中で数値を確認しつつ、テコ入れをしていくのが必要だと思う。これだけの指標があるので、全ての指標では難しいと思うが、進捗が思わしくない指標についてはプッシュする必要がある。企業では1年終わって駄目であれば、そこで事業終了である。やはり駄目だったという評価ではなく、達成できるよう優先的に進める重点的な施策を絞る必要があるのではないか。

例えば、中野市すぐメールの登録者数の測定可能頻度は毎月であり、27年度の進捗率は18.8%である。達成に向けてあとひと押しといったところだ。また、このメールにより市民にとっていい情報がすぐに伝わるのであれば、積極的に広報する必要がる。

また、留学生のSNS発信は、目標値5件、実績値2件とあるが、これは発信した留学生が2人しかいないということか。何人留学生がいたのか分からないが、えらく少ないのではないのか。

(政策情報課長)

実績値のチェックについて、28年度からは毎月数値をチェックし、月ごとの進捗を市長まで報告しているところである。事業実施課も、チェックをしながら今取組むべき指標について確認をしている。

昨年5月にアメリカとカナダから20人ほど日本を勉強している学生が中野に来た。農業や土人形の絵付け体験を行ったが、SNSで発信したのは20人中2人であった。

(委員)

発信者が2人とは残念である。もっとアピールしてもらうことが必要ではないか。

(会長)

事務局は意見を参考に対応をお願いします。

5 その他

・政策情報課長から資料5に基づき説明

・委員からの質問及び意見

(会長)

時期について10月以前という大まかな目安はあるようだが、希望する日程はあるか。この時期は忙しくて無理だとか。

(委員)

10月以前ならば行けません。

飯田市の先進事例にラウンドアバウトが掲載されているが、須坂市でも導入している。

(政策推進係長)

あくまで例示として掲載している。

また、この例は予算上の都合もあり、車を使用して日帰りで行ける範囲を想定している。そして、恐らく平日に実施することとなる。

(会長)

行先で希望はあるか。事務局と決める参考にしたい。

(委員)

中野市と同規模自治体がいいのではないか。また、取組が注目されているところがいい。

(政策推進係長)

先進的な取組として、国及びメディアに取り上げられたところを示している。

これ以外にも存在するが、日帰り圏内という視点で選んである。

(会長)

皆様の意見を参考に正副会長と事務局で決める。

決まったら、事務局から通知するので参加いただけるようお願いする。

・総務部長あいさつ

(総務部長)

いろいろなご意見ありがとうございました。

市役所ではこうして評価を受ける経験が少ないため、本日の意見を参考にどうやって仕事をしていくか考えていきたい。

しっかりとしたPDCAサイクルをつくり、まわしていきたいと考えている。実績値の把握について企業のようにやっていかなければならない。

またご協力をお願いする。

・その他

(委員)

この場は年に1回を想定しているのか。

(政策情報課長)

最低年1回と考えている。

(委員)

チェックする場として必要なのはもちろんだが、これだけのメンバーが集まるのはすごいことである。情報交換のような懇話会のようなものを開けたらいいのではないか。新しいアイデアが生まれてくるのではないか。

この場を活用するようなことを考えていただきたい。

6 閉会

以上